



いとすぎしまね

平成29年度 中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団
連絡協議会・研修会（島根大会）特集号

第26号 平成30年3月31日

島根県青少年赤十字賛助奉仕団

日本赤十字社島根県支部内 松江市内中原町40 TEL 0852-21-4237

朋有り、遠方自り來たる、亦樂しからずや ～中国・四国連絡協議会・研修会への感謝を込めて～

委員長 川津 愛子

爽やかな青空を流れる雲と石垣から枝を伸ばした木々の梢が堀川の水面を彩る秋の日（平成29年10月13日）、私は小泉八雲記念館前のような公園から宇賀橋の方角を一心に眺めていました。やがて塩見縄手を連なってくる3艘の船が見えた時、なぜか胸が熱くなり、「朋有り、遠方より來たる、また樂しからずや」そんな言葉が浮かんできました。そして目の前を滑って行く船に手を振りました。手を振り返してくださる中国・四国9県の青少年赤十字賛助奉仕団の皆さんとの笑顔が嬉しくて、感謝と幸福な思いでいっぱいでした。

島根県青少年赤十字賛助奉仕団が発足して13年目。9年に1回巡ってくる中国・四国青少年赤十字賛助奉仕団協議会・研修会の会場。島根県では平成20年7月、和田貞夫委員長の時代に出雲市を主会場に開催してから2度目になります。（20年当時は7月開催でしたが、全国の総会・研修会が秋季から7月開催となったため、中国・四国協議会は秋季開催になりました。）

初日の10月12日は小泉凡先生の講演「小泉八雲～オープン・マインドでみた日本～」に感銘を深くし、各県賛助奉仕団の課題や特色を語り合うグループ協議は大いに盛り上りました。夕方からの懇親会には小泉凡先生も参加してくださり、優雅なフルートアンサンブルの演奏をオープニングに、銭太鼓（飛び入り参加の賑わいもありました）も楽しんでいただき、交流を深めることができました。

2日目の13日は、安来三中今岡先生に地域ぐるみの防災への取り組みを発表していただきました。防災先進県の実践に引けを取らない充実した内容で、県外の団員さんからも共感の声しきりでした。その後、深まる秋の城下町を堀川めぐりで味わっていただき、小泉八雲記念館にも足を運んでいただきました。

1890年（明治23年）8月島根県尋常中学校に英語教師として赴任したラフカディオ・ハーン（小泉八雲）と松江の縁は2年に満たないものでしたが、セツ夫人との結婚や多くの著書を通して、かくも深く結ばれ、時空を超えて今に繋がり、曾孫の凡先生の講演に聞き入っている不思議さをしみじみと感じました。

私は小泉八雲の『怪談』の中でも、愛媛県の「十六桜」や「うば桜」、鳥取県の「鳥取の布団」が大好きです。悲しくも美しい物語から、八雲の大きな愛や慈しみの心が伝わってくるからです。

島根県青少年赤十字賛助奉仕団の皆さん、日本赤十字社島根県支部の皆さんと心を込めて準備した中国・四国連絡協議会・研修会は、県外からも沢山の同志を迎え盛会裏に終えることができました。ただただ感謝するばかりです。

「青少年赤十字」を冠する奉仕団としての意味と存在理由を改めて問い合わせ直し、私たちがそれぞれ出来ることを、誠実に実践していきたいと願っています。



平成29年度 中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団 連絡協議会・研修会 日 程

10月12日(木)

開会行事

講 演

「小泉八雲～オープンマインドで見た日本～」 小泉 凡 氏

グループ協議

テーマ「各県賛助奉仕団の特色ある活動及び課題」

※ 事前アンケートをまとめたもので協議

10月13日(金)

実 践 発 表

「我が校が取り組む“防災学習”」

安来市立第三中学校 今岡 一郎 教諭

堀川めぐり・小泉八雲記念館見学

閉会行事

於:サンラポーむらくも

【講 演 : 小泉 凡 氏】

『小泉八雲～オープン・マインドで見た日本～』
と 凡先生

角 美幸



この会の趣旨や松江らしさという点から講演講師は小泉凡先生に決まりました。講演はもとより懇親会では凡先生のお人柄にも触れ、オープン・マインドを十分に知ることができました。小泉八雲記念館の見学も併せた今回の企画は大正解だったと言えましょう。

講演は以下の5章仕立てでした。1. 片道切符の世界旅行:ハーンの「オープン・マインド」(開かれた精神)の形成と進化、2. オープン・マインドによる「日本の心」の理解、3. ハーンの五感力と怪談を活かす～子ども塾(スーパーヘルンさん講座)とゴーストツアー(怪談の資源化をめざす文化観光)～、4. 「オープン・マインド」を活かす:アートで活かす小泉八雲の精神性～“The Open Mind of Lafcadio Hearn 展”の開催～、おわりに:持続可能な共生社会をめざす動きとの関わり。八雲に関わる展示会や公演、ゴーストツアー

などが近年盛んで、八雲の生き方や精神性は今日なお魅力的で示唆に富んだものであることが伝わった講演でした。

私は初めてお会いした凡先生でしたが、ニューオリンズの話ができて、彼の地の料理やジャズ、マルディグラなどが思い出され、八雲との縁までも感じさせていただいた出会いでした。

【グループ協議】の概要

広原 啓視



「各県賛助奉仕団の特色ある活動及び課題」というテーマで、事前のアンケートに基づき、スサノオ、クシナダヒメ、エビス、ダイコクの4つのグループに分かれて協議を行いました。

「特色ある活動」には、「青少年赤十字の充実発展を支援する活動」として

① いとすぎの育苗と植樹 (山口県、広島県、愛媛県)

- ② 赤十字思想の普及推進のための教材の作成と配布（徳島県、愛媛県）
- ③ 青少年赤十字トレーニングセンターへの参加（鳥取県、島根県、香川県）

などがありました。これらの詳細について当該県の参加者が熱く語り、他県の参加者が真剣に質問するという場面が多く見られ、内容の濃い協議となりました。山口県から鉢植えのいとすぎを持って来られるなど、熱意のほどが伝わってきました。私たちの仲間の中にも、いとすぎの育苗に取り組んでおられる方がありますが、今後は、賛助奉仕団という組織として取り組む必要があるのではないかと思いました。また、教材の作成と配布についても、当該県の参加者から、いろいろなヒントをいただきました。私たちも、まだあまり知られていない島根県の先人たちの人道的な行為を、地道に発掘していく使命があるように思われました。

予定した1時間30分はあっという間に過ぎてしまい、「賛助奉仕団自体を活性化する活動」や「悩みや問題点」など、他の項目についての協議はできませんでしたが、参加者はそれぞれ満足しておられ、充実した協議になったと思います。



【 実践発表： 安来三中 】

学校から地域に広がる防災の精神

金崎 智枝

安来三中は、平成24年度にJRCに加盟、続いて平成25年度から開始された防災学習は、次のような取組を通して、その精神や技術が学校から地域へと広がりつつあります。

- ① 自助・公助・共助の視点に立った防災学習
第1学年では避難行動のシミュレーションをもとにした防災マップの作成、第2学年では防災に関する

公的機関などでのその役割の学習や防災劇や防災新聞の作成、第3学年では体育館を避難所に見立てた避難所設営体験学習の実施など、自助・公助・共助の視点に立った学習が進められている。

② 避難所設営体験活動

避難所運営ゲーム「HUG」などの事前学習でまずイメージをもち、豪雨による洪水を想定した災害の発生において、体育館で避難所運営を生徒が行う。生徒は、情報・食糧・救護・居住など7つの班に分かれ、周囲の状況の変化を予測しながら対応を考える。

避難所のレイアウトの工夫、必要な備品の準備、様々な背景の避難者からの要望への対応、避難所のルールの作成、食糧や物資の配布の方法など、具体的なイメージを持ちながら、班長を中心に避難所の運営が行われた。平成29年度は、ハイゼックスを使った食糧班の焼き出しの体験に特化された。

③ 地域と共に学ぶ防災

安来三中の防災学習は、校区の地域や市からも注目されている。地域の方と共に避難所周辺をまわって危険個所等を確認したり、作成した防災新聞を高齢者に配布したり、避難所運営ゲーム「HUG」を校区の交流センターで地域の方々と一緒に行ったりと、学校を拠点として地域の防災学習が進められるようになっている。

総合的な学習の時間に行われるこの活動は、自らを危険から守る力を育てるだけでなく、判断力、課題解決力、行動力などを育てることを目的とされています。私もこの学校で、職員や生徒の皆さんと一緒に防災学習取り組んできた一人として、学校での取組が地域に広がり、大人を動かしていることに頼もしさを感じました。

参加された各県の皆様からは、「このような取組を、是非うちの県にも来て話してほしい。」と熱いコールがありました。



中国・四国ブロック連絡協議会・研修会に参加して

久しぶりの充実感

落合 嘉信

11月13日、サンラポーむらくもから帰路の車の中で「あー、よかったです！」と思わず口ずさんだ。ロビーで見送った県外の会員たちの満足そうな顔が浮かんでくる。県内会員の参加者も多かったし、中には体調が十分でない方も参加されていた。それらは、私たちの組織、青少年赤十字賛助奉仕団に対する会員の熱い思いがあるからこそであろう。懇親会は、名司会者の進行で始まった。冒頭のフルート演奏は圧巻であったし、聴衆はやさしい音色にうつとりした。銭太鼓の演技には多くの方が飛び入りで参加され、島根県の民謡に興味や関心をもたれたに違いない。この演奏は会員ではなく、他の日赤奉仕団の皆様によるものであった。奉仕団員とのつながりがあるからこそ実現できたものであり、赤十字の助け合いの精神が底に脈々と息づいているからであろう。

2日目、安来市立第三中学校の防災の実践発表は時宜を得たものであった。堀川めぐりと小泉八雲記念館見学は前日の雨はあがり、天候に恵まれた。雲出づる国、出雲独特の秋の風情を感じとつていただけたであろう。

このように、県外からお見えになった会員たちの温かい人間性に触れることもできだし、私たちの会員は素晴らしい技能と能力をお持ちだとつくづく思った。まさに適材適所でそれぞれの役割を持ち、それをいかんなく発揮できた研修会であった。

退職後は、平凡に過ごしているが、本当に久しぶりに充実感、満足感にひたった研修会であった。



よき協力者

本田 坦

研修・協議・実践発表・視察などを終え、川津委員長の閉会のことばで、ブロック協議会・研修会を閉じた。次回は、順番で山口県、同支部の職員が「素晴らしい会

でした」と賛辞を残して帰路についた。

島根の奉仕団員は、委員長のもと協力し合って、会を運営した。

団員が、「よきリーダーは、よき協力者である」の言葉どおりであるのを見た。合せて、赤十字が好きなんだなあ～と感じた次第。



松江の秋色も演出できた大会

清水 正顕

机の引き出しを開けると松江城と赤十字のマーク入りの名札があの日の感動を伝えてくれます。大会が終わり見送るために島根の会員が一列に並んでいるロビーでは、参加者はみんな笑顔、そして固い握手でのお別れ、大会が成功であったことをみんなで実感しましたひとときでした。前日の荒天で実施さえ危ぶまれた堀川遊覧も、当日は最高の秋晴れで松江の風情を紹介してくれました。松江の秋も満喫できた大会ともなりました。



最高の同志とともに

中澤 悅子

10月12日、13日 中・四国JRC賛助奉仕団連絡協議会・研修会が松江市で開催されました。

毎月の準備会は、感謝と喜び、期待の中で実施できた一年間でした。最高の同志とともにかけがえのない学びの時でもありました。

当日は他県の方を迎えて盛大かつ充実した有意義な内

容でした。悩みも課題や喜びも分かちあい白熱した協議も出来ました。

希望も湧き、連帯感あふれる最高の研修会になったことを心より感謝します。

認識を新たにしたこと

安食 富晃

複数県から提起されていた「防災教育」は、昨今の研究や実情から避けて通れない最重要課題の一つと思う。幼保児から高齢者までの安全確保に、より良い手立ては如何にあるべきか…。各地域、各立場で関係者と連携を密にし、何をどの様にすべきか…。よく考え、実行に移す大切さを痛感した。

懇親会では、10年振りに某県の大御所にお会いし、懐かしさ全開でした。



感銘深いブロック会

和田 貞夫

本件開催の中国・四国ブロック連絡協議会・研修会は、赤十字の基本原則の理念にふさわしい小泉凡氏の講演や各県の特色ある活動の実態や課題が熱心に提案討議された。特に私の部会では、来年度から実施される小学校道徳の時間に対して赤十字活動の普及を図る教材の作成提供等が話し合いされ、愛媛や島根の具体例が示されて注目された。

早速、参加した他県の旧知の同志から感銘を受けたとの礼状が届き、喜んだ次第である。

赤十字への思い

平木 榮

平成20年に出雲市で開催された中四国連絡協議会から10年ぶりの島根大会が松江市で開かれた。これまで鳥取、高知大会等にも出席し、各県の活動状況をお聞きし、研修、親睦を深めることができた。25歳で赤十字の崇高な考え方を知り、以来50年以上がたち、病気がちになった今実際に表立った活動が出来なくなり、今回の松江大会では何一つお手伝い出来ず誠

に申し訳なく、残念であった。しかし、川津委員長を先頭に団員一丸となった2日間、見事であった。これからは、1人でも多くの子供達に、常に弱い者や困った人の味方である世界の赤十字の考え方を伝え、広めていきたい。幸い、今全県に、私が教えた人達が教職員となって各地の学校に勤めている。同窓会等で会ったり、賀状や電話等を通して広めていきたい。今後とも加盟校が増え、豊かな人間性と真の生きる力を持った子供達が育っていくことを願っています。(遺稿)

研修会の余韻を思う

豊田 智恵子

かくも盛大な研修会に、参加出来た事は幸運であった。小泉凡先生の講演と小泉八雲記念館に魅了され、購入した本にサインも頂いた。安来三中の防災学習の発表は、心強いパワーを貰った。GWは和やかに話が進み、赤十字の絆を実感した。そして、夜の部の研修が盛り上がった事! フルートの澄んだ音色に癒され、隠岐の「しげさ節」では、島の小学校に転校した頃を懐かしく思い出した。他県の方々は銭太鼓にも興じられ、踊られる方もあり楽しく過ごされた。堀川遊覧では、城山周辺の木々や鳥・町並み等の話を、炉達の無い布団を囲んで語り、橋にさしかかると船の屋根が下がって、身を伏せる姿勢で笑い声があふれた。船上で聞いた松江夜曲の哀愁は、心に残ったであろうか。♪まつまつ松江は君を待つ。又の来松をお待ちしたいものである。私は再々治療を前に、研修で沢山のα波を頂き、何よりの良薬になったと感謝している。



人との繋がりが命を救う

～この日本列島、誰もが被災者に～

荒木 光哉

学生時代からの延長で、帰郷後も高体連等、県岳連・スキーの同志諸兄と半世紀を越す“ご縁”が今も続く。各種大会では、日赤県支部の方々にもお世話になった。何せ自然が相手の世界、その間、忘れ得ぬ感動的な体験も、大事故寸前の場面にも遭遇した。自然の恩恵と大災害の同居する列島日本。夏秋冬、何度も行った北

海道、阿蘇山麓、東北、中部山岳地帯でも、自然破壊の惨状に驚愕し、身震いした。一生の間、誰もが被災者になり得る。万一に備えどう対処するか。平素から人の繋がりを大切に、実践体験を共有することが肝心。災害は止められないが、人間の努力で軽減はできる。

中国・四国ブロック連絡協議会・研修会

各県の皆様からのお手紙より（抜粋）

愛媛県副委員長 鎌田 サチ子 様 より

ブロック研修会では本当にお世話になりました。心に残る有意義な会でした。準備段階からきちんととしたアンケートを取られ、まとめられ、島根の心意気を強く感じました。研修会の内容も素晴らしかったです。講演の内容も素晴らしく、松山の友人にも多く披露しています。実践発表も、今求められている活動で参考になりました。こまかいところまで配慮されている会の運営でした。

広島県委員長 日高 敬司 様 より

中四国大会ありがとうございました。小泉八雲がより身近になりました。

香川県委員長 漆原 勝弘 様 より

中四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団協議会・研修会でのことが昨日のようになつかしく思い出されます。内容の濃い、心からの接待、会場全体が和やかな雰囲気に包まれていて、ほんとうに心に残るいい会でした。りっぱな会場でしたね。同行の香川県の赤松副委員長も、とても充実した会だったと喜んでいました。

高知県委員長 森田 道明 様 より

中四国協議会では大変お世話になりました。



第8回 赤十字救急法競技大会

救急法競技大会 5回出場の成果

松本 淑子

「心肺蘇生の部」も「三角巾包帯法の部」も、今年度は3位以内に入賞できず残念でしたが、「心肺蘇生の部」では特別賞をいただきました。

大会前にはその都度5～6回も指導してくださった支部のスタッフの方や本田先生には深く感謝しつつも、練習は十分したのに本番ではその成果が出せなかつたと負け惜しみを言ったり、年だから仕方がないと開き直ったりの繰り返し。しかし所期の目標は達成できたと思っています。

- 1 私のような年配のものが出ることで、若い人や高校生の出場に刺激を与えることができた。
- 2 救急処置の大切さを実感し、練習を積み重ねて救急法の知識・技能を身につけた。
- 3 情熱を傾けて一緒に練習した“みずうみ赤十字奉仕団”的人と垣根を越えて、結束できた。

次年度は他の団員の皆様にも多数参加いただけたらと思います。



支部より

日赤島根県支部 落合 七彩

今年度、団員の皆さんには6か所の学校のJRC加盟登録式へ一緒に出かけいただきました。式の中では、肩章の贈呈や、自身の経験や日常生活での出来事をもとに「気づき・考え・実行する」ことの大切さをお話しいただき、多くの子どもたちに分かりやすくJRCの精神を伝えていただきました。私自身もその話の内容や皆さんの話しぶりから学ぶことが多々あり、とても勉強になりました。そしてなにより、学校へ出かけた団員の皆さんがとても生き生きとしておられ、学校への愛着や子どもたちが大好きだという気持ちが伝わってきたことが印象的でした。

これからもお力をお借りすることが多々あると思いますが、一緒にJRC活動の推進をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

日赤島根県支部 澤田 和憲

先日、皆さまのお仲間の元青少年赤十字指導者協議会長平木榮先生がご逝去されました。もっともっと一緒に活動がしたかったなあと残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。支部事務局として葬儀に参列し、弔詞をお供えしましたので報告いたします。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

池田 敏雄 様 H29. 6. 24 ご逝去
飯國 徹夫 様 H29. 12. 8 ご逝去
平木 榮 様 H30. 3. 10 ご逝去

【青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター】



【NHK歳末・海外たすけあいフェア】



【年末義援金寄託】



【平成29年度島根県青少年赤十字賛助奉仕団 総会】



【3. 11 街頭募金活動】



平成29年度 賛助奉仕団事業

| 事業名 | 期日 | 場所 | 備考（参加者等） |
|-------------------------------|----------------------|-----------------------------------|--|
| 赤十字運動月間広報キャンペーン | 5月14日（日） | イオン松江店、 キャスパル（松江市） ラピタ（出雲市） | 5名参加 赤十字への協力呼びかけ、カットパン配布 |
| 総会・研修会 | 5月29日（月） | 日赤島根県支部 2階会議室（松江市） | 16名参加 28年度事業報告及び決算報告 29年度事業計画（案）及び予算（案） 講演：「熊本地震災害救護に出かけて」 日赤島根県支部 澤田 和憲 |
| 青少年赤十字加盟校登録式 | 4月26日（水） | 安来市立第三中学校 (安来市) | 各日ともに1名参加 加盟登録式にて赤十字の話、肩章の贈呈 |
| | 4月27日（木） | 出雲市立湖陵中学校 (出雲市) | |
| | 5月2日（火） | 安来市立広瀬中学校 (安来市) | |
| | 6月8日（木） | 安来市立安田小学校 (安来市) | |
| | 6月22日（木） | 安来市立島田小学校 (安来市) | |
| | 6月28日（水） | 安来市立第一中学校 (安来市) | |
| 島根県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会 | 5月10日（水） | サンラボーむらくも (松江市) | 委員長出席 |
| 支部赤十字奉仕団委員長協議会 | 6月18日（日） | 日赤島根県支部 2階会議室（松江市） | 委員長出席 |
| 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会役員会・総会 | 7月4日（火） ～6日（木） | 日本赤十字社 (東京都) | 委員長出席 |
| 青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター | 8月2日（水） ～4日（金） | 島根県立青少年の家 (出雲市) | 5名参加 |
| 第5ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会 | 10月12日（木） ～13日（金） | サンラボーむらくも (松江市) | 島根県賛助奉仕団 18名参加 県外より 24名参加 |
| 第8回 赤十字救急法競技大会 | 11月19日（日） | 島根県立武道館 (松江市) | 3名参加 心肺蘇生の部 三角巾包帯法の部出場 特別賞受賞 |
| 青少年赤十字指導者協議会役員との三役会 | 11月24日（金） | 日赤島根県支部 2階会議室（松江市） | 5名参加 |
| NHK歳末・海外たすけあいフェア | 12月10日（日） | いきいきプラザ島根 (松江市) | 4名参加 バザー用品の提供、バザー会場の運営 寄付品販売 |
| 役員会 | 4月～9月 毎月1回 | 日赤島根県支部 2階会議室（松江市） | 第5ブロック連絡協議会・研修会に 向けて打合せ等 |
| 年末義援金 | 12月 | | 支部を通して県内児童福祉施設へ |
| 特別義援金 | | | 平成29年7月5日からの大雨災害義援金 |